

# 【漁況】

## [マアジ]

### 1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンに増加し、平成10年までは30トン台で推移しました。平成11年には大きく減少し21万1千トンとなりましたが、その後やや増加し、平成16年は25万1千トンでした。

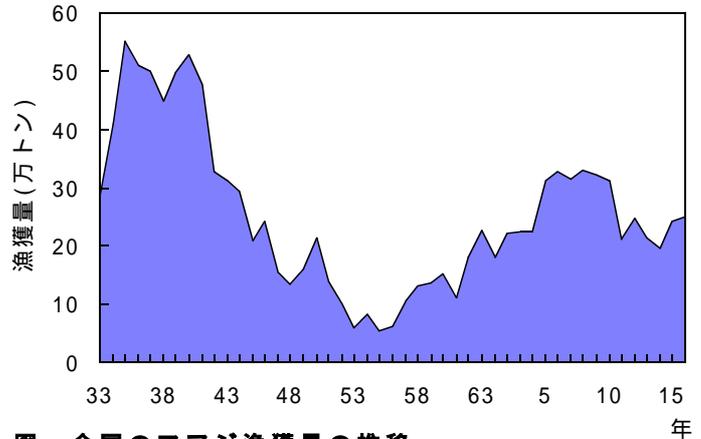


図 全国のマアジ漁獲量の推移

### 2. 平成17年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、阿久根沖～串木野沖、甌周辺に漁場が形成されました。

薩南海域では、内之浦沖、佐多沖、馬毛島沖に漁場が形成されました。

4港計のまき網では、豆・小アジ(1歳魚・平成16年生まれ)主体に852トンの水揚げで、前年の70%及び平年の68%でした。

### 3. 平成17年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は、アジ仔・豆アジ(0歳魚・平成17年生まれ)及び小アジ(1歳魚・平成16年生まれ)となるでしょう。

来遊量は、平年並みで前年を上回るでしょう。

(根拠)

近年の漁獲パターンや現在の漁況経過から、アジ仔・豆アジ(0歳魚・平成17年生まれ)及び小アジ(1歳魚・平成16年生まれ)となると考えられる。

アジ仔・豆アジ(0歳魚)は、3～5月の稚仔調査の結果から、前年を上回り、平年並みと考えられます。

小アジ(1歳魚)は、前期のまでの漁況経過から来遊水準は平年並みと考えられます。

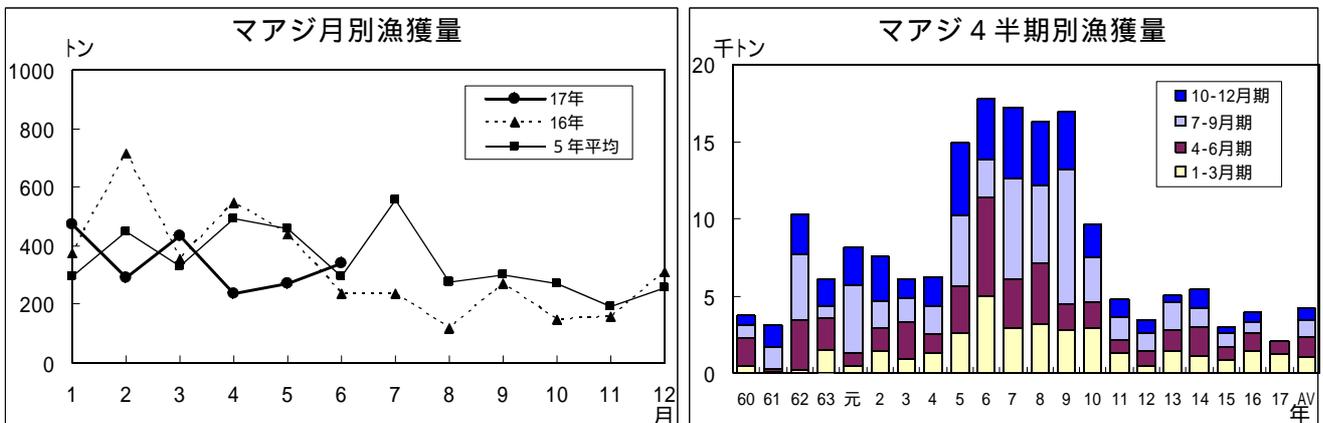


図 マアジまき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成12～16年)の平均値,平成17年6月29日までの水揚量を使用。

# [ サバ類 ]

## 1. 漁獲量の動向（農林統計）

サバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トンにピークにマサバ資源水準の低下により年々減少し、昭和57年には72万トンとなりました。その後は、ゴマサバの増加により大幅な漁獲量の減少は見られませんが、昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため、サバ類の漁獲量は大きく減少し、平成3年には26万トンとなりました。平成9年には84万9千トンまで増加しましたが、平成14年は27万9千トンに減少した後、やや増加し平成16年は33万5千トンでした。

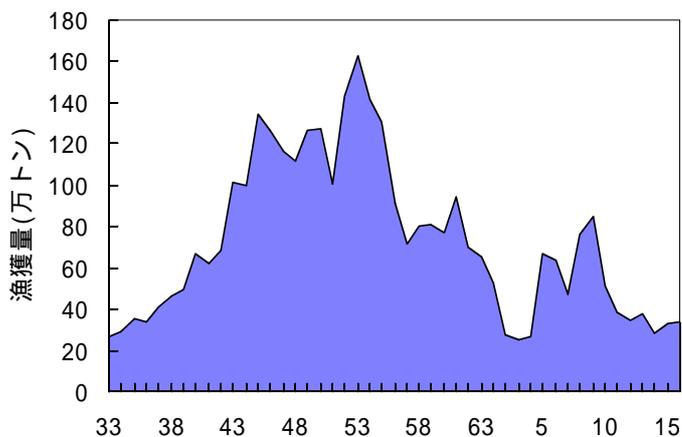


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

## 2. 平成17年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甌島東・野間池沖が主漁場となった。

薩南海域では、内之浦沖・馬毛島沖・佐多沖・種子島東・野間池沖が主漁場となった。

4港計では、4～5月中旬はゴマサバ中・大主体(2歳以上)に、5月下旬～6月はゴマサバ豆・小(1歳魚・平成16年生まれ)主体に4,166トンの水揚げで、前年の283%及び平年の242%でした。

## 3. 平成17年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は、ゴマサバ豆・小・中（1歳魚・平成16年生まれ）主体で、9月以降はゴマサバ豆（0歳魚・平成17年生まれ）の漁獲もあるだろう。

来遊量は前年・平年を上回るでしょう。

（根拠）

近年の漁獲パターンや現在の漁況経過から、ゴマサバ1歳魚(平成16年生まれ)主体になり、9月以降はゴマサバ0歳魚(平成17年生まれ)が漁獲加入すると考えられる。

ゴマサバ1歳魚(平成16年生まれ)は、本県への来遊量が高水準であり、また太平洋海域での資源豊度も近年では高い(中央水研)ことから、好調に推移すると考えられる。

ゴマサバ0歳魚(平成17年生まれ)は、定置網等の入網状況によると、薩摩半島～大隅半島で5月以降に多く入網しており、加入量は高水準と考えられる。

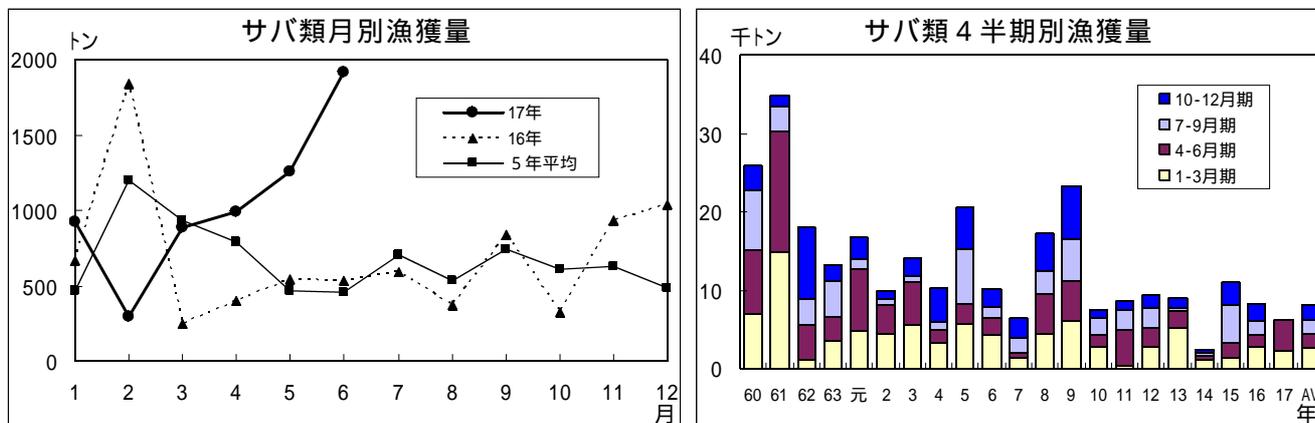


図 サバ類まき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成12～16年）の平均値，平成17年6月29日までの水揚量を使用。

# [マイワシ]

## 1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。

しかし、平成元年から三陸沖を中心に漁獲量が減少し始め、その後もマイワシの若齢魚の減少等により、全国的に漁獲量は減少を続け、平成7年には66万トン、平成10年は16万7千トンとなりました。平成11年は35万1千トンとやや増加したものの、その後減少し平成16年は5万1千トンでした。

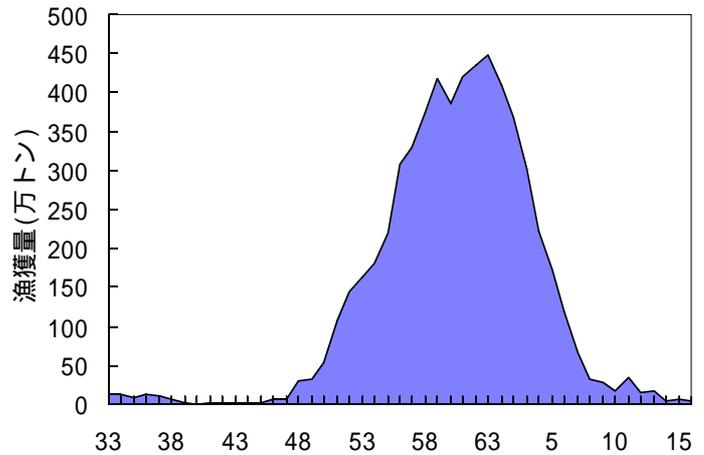


図 全国のマイワシ漁獲量の推移 年

## 2. 平成17年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

鹿児島県4港のまき網で3.4トン（前年比0トン，平年比68%）で散発的な水揚げに留まりました。6月に8.5～9.5cm程度の小羽銘柄が北薩海域沿岸部で混じり程度に水揚げされました。

## 3. 平成17年7～9月期の見とおし

来遊量は前年を上回り平年を下回る程度で、まとまった漁獲は期待できないでしょう。

（根拠）

マイワシの資源状態は全国的に低水準にあり、資源回復の兆候はみられません。

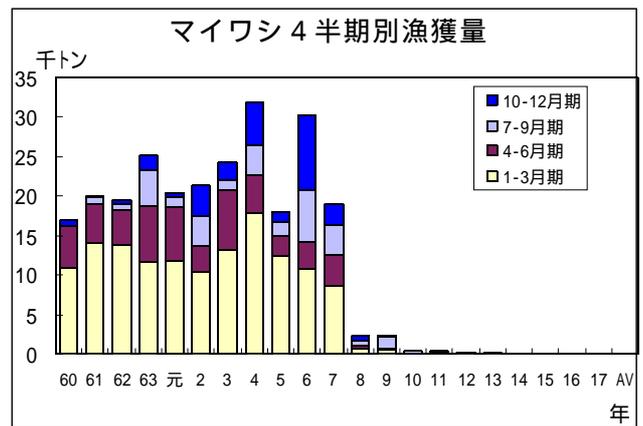
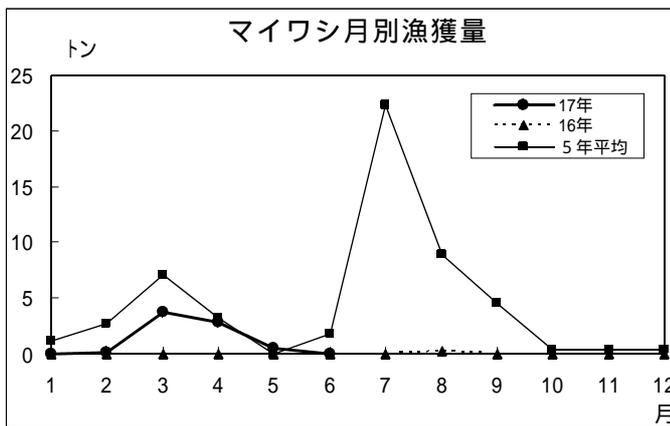


図 マイワシまき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成12～16年）の平均値，平成17年6月29日までの水揚量を使用。

# [ウルメイワシ]

## 1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代後半から40年代前半にかけて3万トン前後で推移していましたが、昭和46年から54年まで5万トン前後で推移しました。昭和55年以降、漁獲量は減少し昭和60年には3万トンとなりましたが、その後、増減を繰り返しながら、増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとなりました。近年では再び減少傾向に転じ、平成9年は5万5千トン、平成16年は3万2千トン

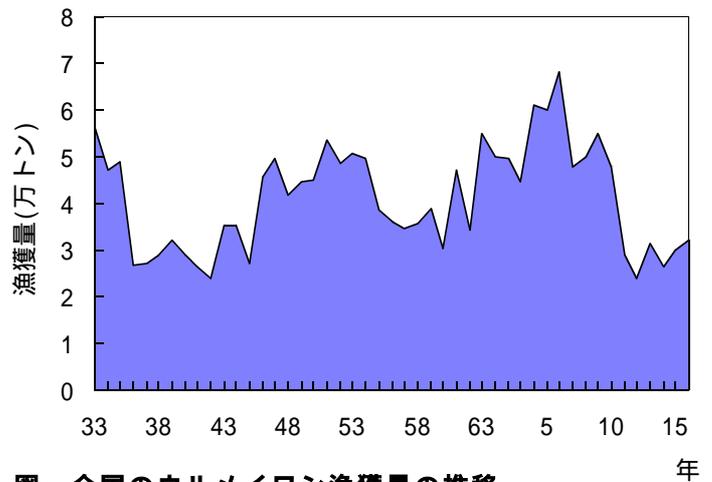


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

## 2. 平成17年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

鹿児島県4港のまき網で8.2トン（前年比9%，平年比4%），北薩海域の棒受網で30.6トン（前年比10%，平年比14%）と前年・平年を下回りました。

主要な漁場の一つである北薩海域では、産卵親魚，当歳魚とも低調な水揚げが続いています。

## 3. 平成17年7～9月期の見とおし

小羽ウルメ(0歳魚・平成17年生まれ)が漁獲の主体になり，来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

（根 拠）

前期の親魚来遊量が低調に推移したことや近県の漁模様などから，規模の大きな来遊は見込めないと考えられます。

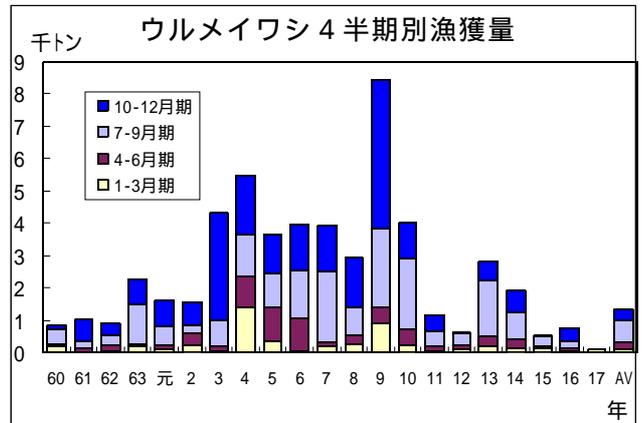
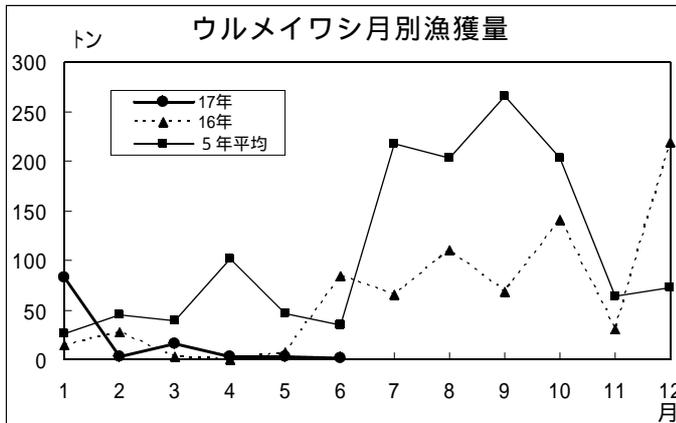


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成12～16年）の平均値，平成17年6月29日までの水揚げ量を使用。

# [ カタクチイワシ ]

## 1. 漁獲量の動向（農林統計）

カタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。その後、徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが、昭和62年には再び14万トンまで減少しました。昭和63年以降は大きく増減を繰り返し平成9年は23万3千トン、平成11年は48万トンとなりました。平成13年は、30万トンと一時的に減少しましたが、平成14年は再び増加し44万トン、平成16年は過去最高の49万8千トンでした。

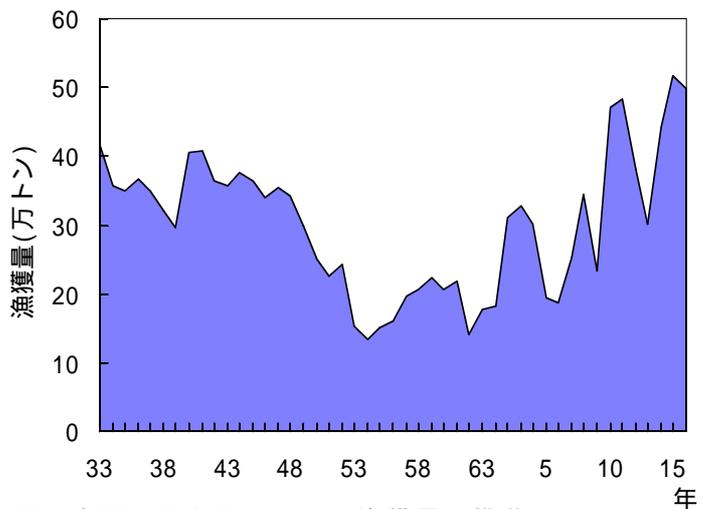


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

## 2. 平成17年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）のまき網及び棒受網】

鹿児島県4港のまき網で295.5トン（前年比200%，平年比124%），北薩海域の棒受網で139.2トン（前年比47%，平年比41%）の水揚げで，まき網は前年，平年を上回り，棒受網は前年，平年を下回りました。

北薩海域では1～4月まで大羽銘柄（1歳魚 平成16年生まれ）を主体に好調な水揚げが続いたものの，0歳魚を主体に漁獲する棒受網の水揚げは低調に推移しています。

## 3. 平成17年7～9月期の見とおし

小～中羽(0歳魚・平成17年生まれ)が漁獲の主体になり，来遊量は前年並みか，前年・平年を下回るでしょう。

（根拠）

本年3～5月かけて実施した卵稚仔魚の分布調査から分布量は比較的高い水準にあったものの，0歳魚を主体に漁獲する棒受網漁業及び周辺海域のバッチ網漁業の漁模様から，来遊時期が遅れる可能性が考えられます。

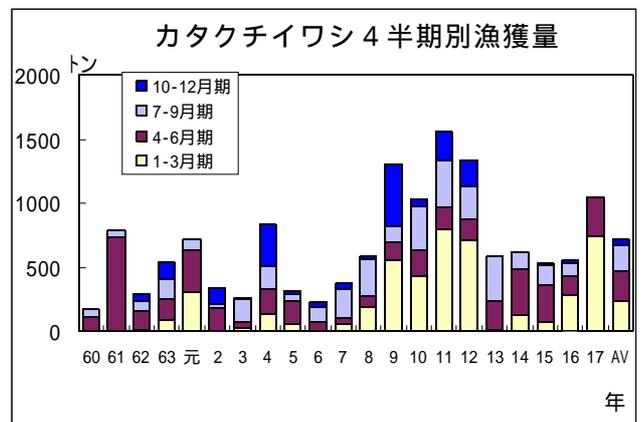
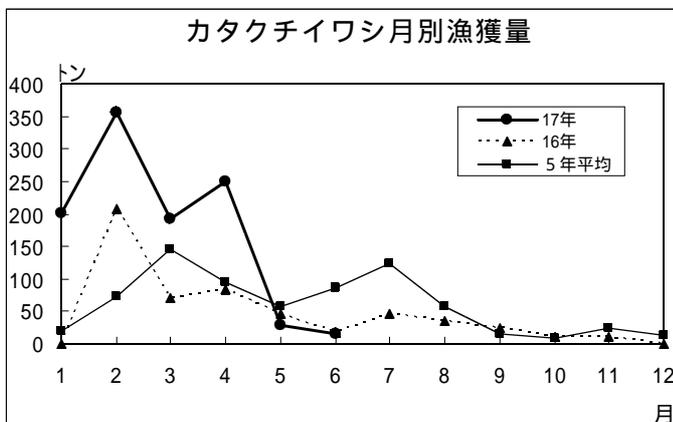


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成12～16年）の平均値，平成17年6月29日までの水揚量を使用。

## [ その他の魚種 ]

### ムロアジ類 ( 4 港計 )

#### 1. 経年変化及び平成17年4～6月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トンピークに減少傾向を示し、平成12年は、昭和58年以降最低の1,819トンとなりました。平成13年以降はやや増加し、平成14年には4,418トンとなりましたが、その後はやや減少し平成16年は2,529トンとなりました。

平成17年4～6月は、主に薩南海域で漁獲があり、期全体では100トンの水揚げで、前年の169%及び平年の89%でした。

#### 2. 平成17年7～9月期の見とおし

来遊量は前年を上回り、平年並みでしょう。

### オアカムロ ( 4 港計 )

#### 1. 経年変化及び平成17年4～6月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トンピークに減少し、平成6年には1,823トンとなりましたが、その後は増加傾向となり、平成10年は3,413トンでした。その後、減少傾向となり、平成16年は2,204トンとなりました。

平成17年4～6月は、主に薩南海域で漁獲があり、期全体では161トンの水揚げで前年の18%及び平年の43%でした。

#### 2. 平成17年7～9月期の見とおし

来遊量は前年を上回り、平年を下回るでしょう。

### マルアジ ( アオアジ ) ( 4 港計 )

#### 1. 経年変化及び平成17年4～6月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、平成2年以降低調に推移しましたが、平成7年には1,430トンに増加しましたが、再び減少し平成11年は639トンでした。平成12年以降は増加傾向を示し、平成15年は3,150トンとなりました。その後減少し、平成16年は282トンでした。

主に西薩海域で漁獲があり、期全体では62トンの水揚げで、前年の71%及び平年の19%でした。

#### 2. 平成17年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は、マルアジ小 ( 1 歳魚・平成16年生まれ )、マルアジ中・大 ( 2 歳以上 ) 及び9月以降はマルアジ豆 ( 0 歳魚・平成17年生まれ ) となるでしょう。

来遊量は低調であった前年を上回り、平年を下回るでしょう。

( 根 拠 )

前期までの漁況経過からマルアジ小 ( 1 歳魚・平成16年生まれ ) 及びマルアジ中 ( 2 歳魚・平成15年生まれ ) の来遊量が低水準であります。

9月以降は、例年どおりマルアジ豆 ( 0 歳魚・平成17年生まれ ) の来遊が見込まれるが、来遊量は現段階では判断が難しい。

総合的にみて前年を上回り、平年を下回ると考えられる。

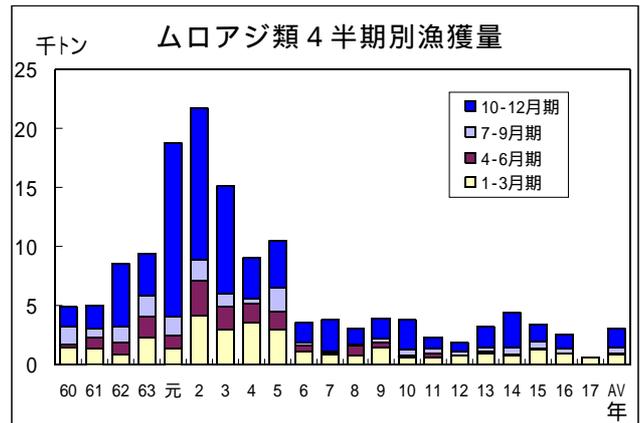
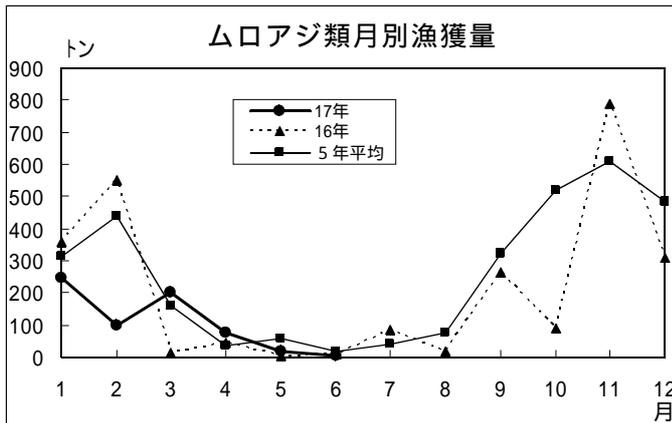


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

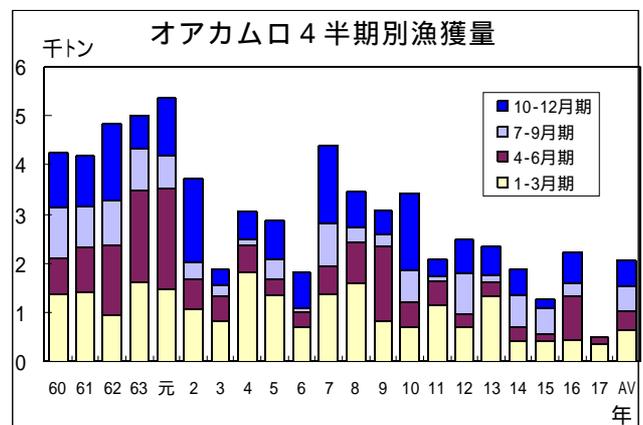
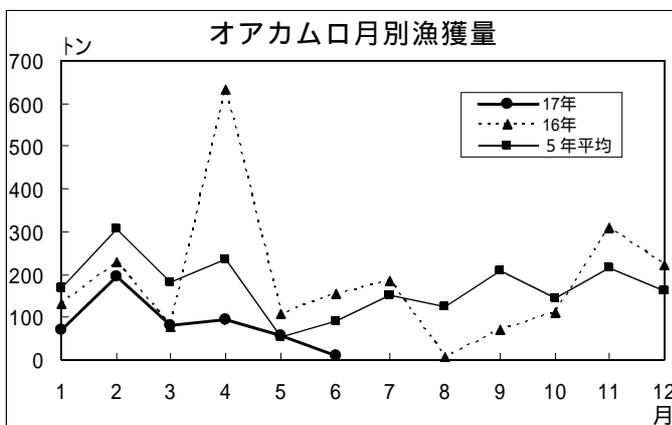


図 オアカム口まき網漁獲量変化(4港計)

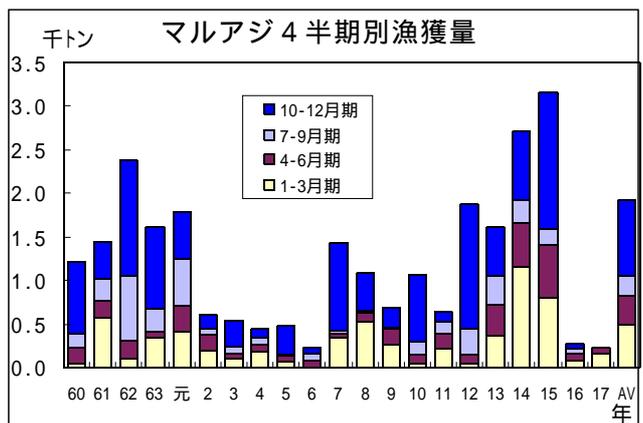
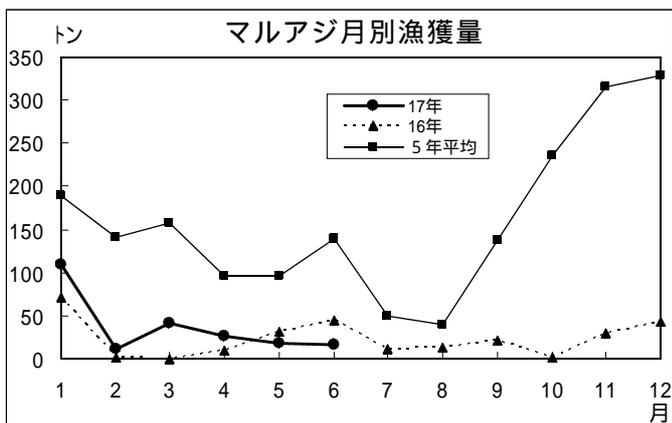


図 マルアジ(アオアジ)まき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成12~16年)の平均値,平成17年6月29日までの水揚量を使用。

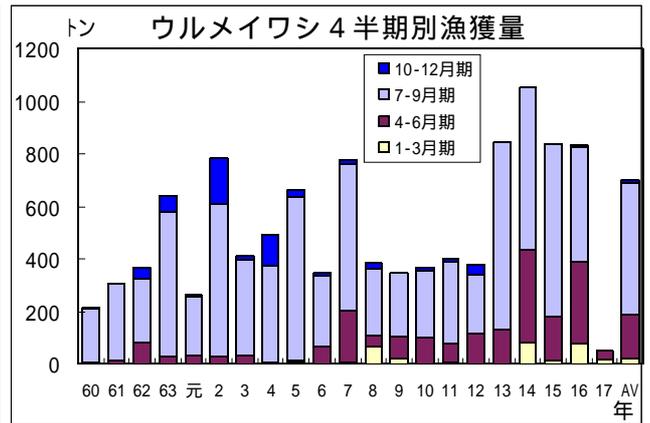
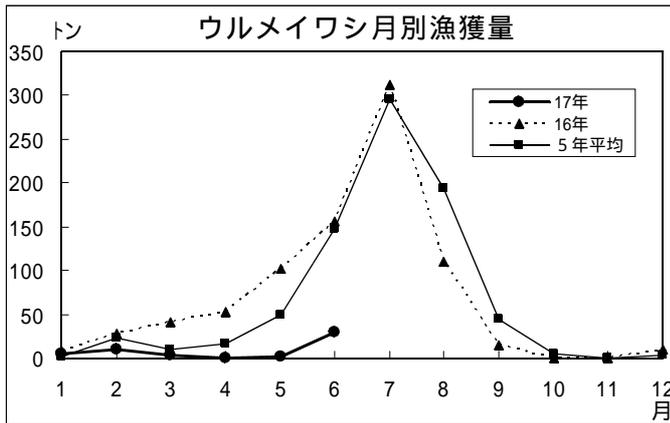


図 ウルメイワシ敷網漁獲量変化(阿久根港)

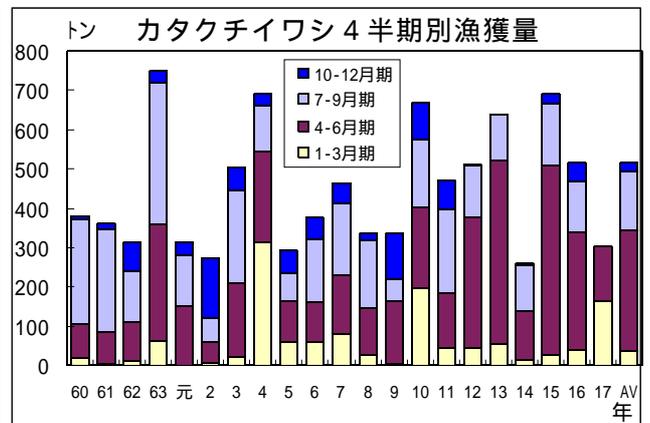
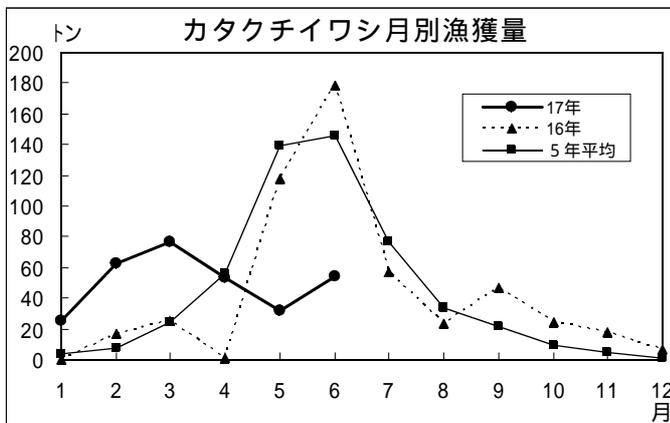


図 カタクチイワシ敷網漁獲量変化(阿久根港)

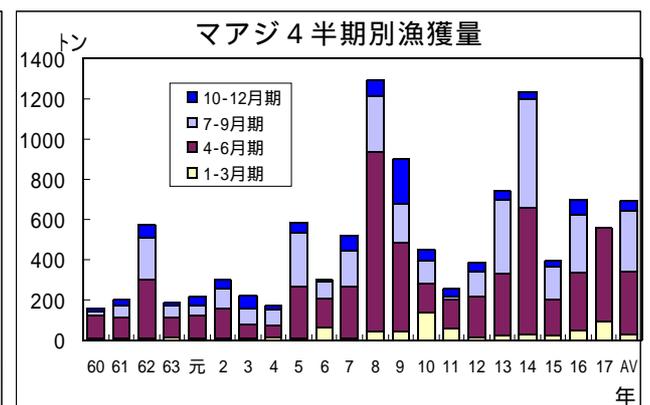
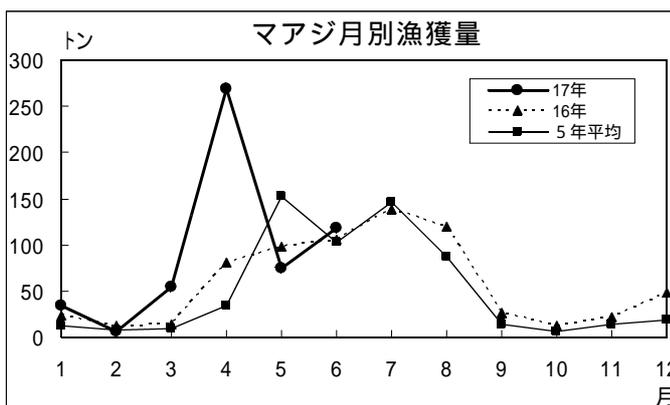


図 マアジ定置網漁獲量変化(内之浦港)

平年値は過去5年（平成12～16年）の平均値，平成17年6月29日までの水揚量を使用。